

《履修上の留意事項》遠隔授業のみ実施

《担当者名》田村至

【概 要】

大脳の損傷によって生じる失語症、失認、失行、記憶障害、注意障害などの様々な脳機能障害およびその出現メカニズムを理解する。

【学習目標】

脳損傷に起因する認知、行為、記憶、注意、知能の障害について定義、症状、検査、評価、病巣、発現メカニズム、経過と対応について理解する。

1. 様々な高次脳機能障害の定義、症状、検査、評価、病巣、発現メカニズムについて説明できる。
2. 様々な高次脳機能障害の検査バッテリーについて説明できる。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1	脳と心	脳の進化についての視聴覚教材 脳の進化と高次脳機能の意味について学ぶ。	田村至
2	高次脳機能障害の定義・原理	高次脳機能障害の概念について学ぶ。 神経心理学の原理（二重解離、機能局在、側性化、離断）について概説する。	田村至
3	視覚の高次脳機能障害 視覚失認ほか	視知覚・空間認知のしくみとその障害（半盲、皮質盲、Anton症状、半側空間無視等）、視覚性対象認知障害（物体失認、相貌失認、街並失認、同時失認等）を概説する。	田村至
4	聴覚の高次脳機能障害 病態理解関連の障害	聴知覚・認知のしくみとその障害（聴覚性消去現象、純粋語彙、環境音失認、感覚性失音楽、聴空間知覚障害）について概説する。 病態理解に関連する半側身体失認（無視）、病態失認等を概説する。	田村至
5	行為・動作の高次脳機能障害	1) 行為・動作全般の障害として、拙劣症、運動維持困難、運動無視について概説する。 2) 行為・動作の障害として、観念運動失行、観念失行を概説する。 3) 行為・動作の障害として空間操作障害のうち、構成障害、着衣障害をとりあげ、概説する ・ ゲルストマン症候群にも言及する。	田村至
6	脳梁離断症候群	脳梁の構造と様々な脳梁離断症状を概説する。	田村至
7	記憶の構造と分類	記憶のしくみと分類（陳述記憶、手続き記憶、エピソード記憶、意味記憶、短期記憶、長期記憶、言語性記憶、視覚性記憶）	田村至
8	記憶障害	記憶の障害（前向性健忘、逆行性健忘、純粋健忘症候群、外傷性健忘、一過性全健忘他）および記憶障害のリハビリテーションを概説する。	田村至
9	前頭葉機能障害 （遂行機能障害、注意障害）	前頭葉に関連する高次脳機能障害（遂行機能障害、注意障害）についての病態、診断、リハビリテーションについて概説する。	田村至
10) 12	認知症	変性疾患、脳血管障害などに起因する認知症（アルツハイマー病、前頭側頭型認知症、レヴィー小体型認知症などの病態、診断について概説する。	田村至

【評価方法】

定期試験100%

【備 考】

教科書：藤田郁代 他 編 「標準言語聴覚障害学 高次脳機能障害 第2版」 医学書院 2015年

【学習の準備】

シラバスに書かれた講義進行に応じて指定した教科書を事前に読んでおくこと（80分）

講義で配布した資料と教科書で講義内容を復習し、知識を確実なものにすること。（80分）

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP4）リハビリテーション専門職として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、適切に対処できる実践的能力を身につけます。

【実務経験】

田村 至（言語聴覚士）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での臨床経験を活かし、様々な高次脳機能障害の病態、リハビリテーションについて講義する。